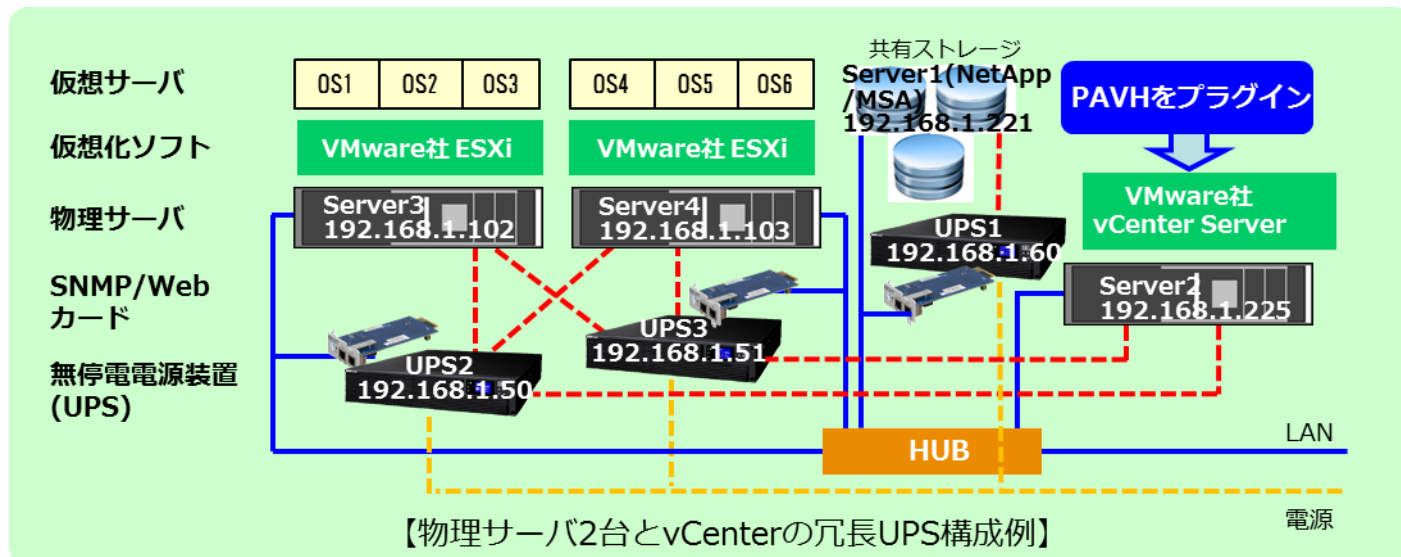


## ▼構成の概要

ESXi ホスト2台とvCenterを電源冗長化し、ストレージは別のUPSを使い合計3台のUPSで構成する。

## ▼構成図

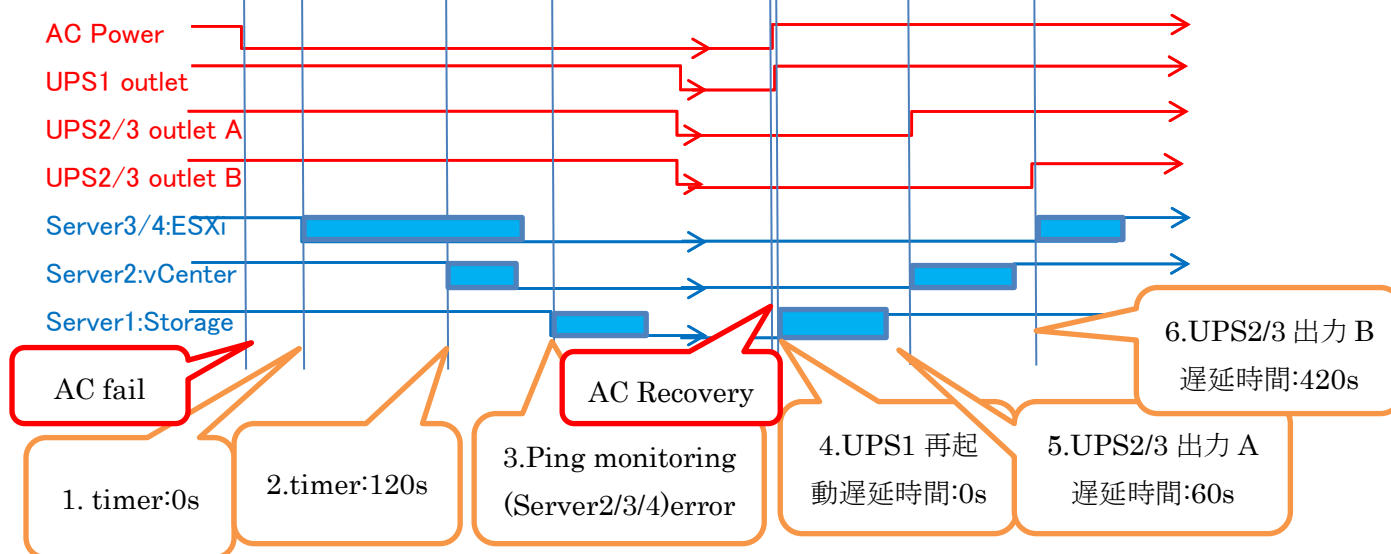


## ▼構成図の説明

- ・ESXi ホスト2台及びvCenter用の冗長UPS2台とストレージ用のUPS1台で合計3台のUPSで構成する。
- ・AC電源の停電発生時にストレージを含む本構成全体をシャットダウンする。
- ・ESXiホストおよびvCenterは、PAVHで設定した待機時間経過後にシャットダウンを行う。ストレージは他のサーバが全部シャットダウンしてから最後にシャットダウンする必要があるため、SC20G2(Ver3.04以降必須)からESXiとvCenterに対して行っているPing監視の応答エラーをトリガーに、SC20G2からのスクリプト送信によりシャットダウンを行う。
- ・ESXiホスト及びvCenter用の各UPSは出力コンセント制御ありでサーバ3台の負荷容量をサポートする機種選定が必要。(冗長電源の出力コンセント A:vCenter、B:ESXi を接続する)

## ▼動作シーケンス図

タイミングチャート(AC電源の停電発生と復帰時)



## ■設定パラメーター一覧

この構成を組むために必要となる設定について、以下に一覧を示します。

記載のない項目はデフォルト(初期設定)とします。

具体的な設定手順につきましては、4 ページ以降をご参照ください。

### <PAVH>

項目	設定画面	該当ページ	設定項目(data)	設定値
1	複合デバイスのセット	5	デバイス名	任意の冗長電源のデバイス名
2			冗長レベル	0
3	設定→インフラストラクチャーコネクター→コネクターの追加	6	製品	VMware vCenter
4			ホスト名または IP アドレス	192.168.1.225
5			ユーザー名	administrator@vsphere.local
6			パスワード	xxxxxxxxxxxxxx
7			vCenter プラグイン	<input checked="" type="checkbox"/>
8	Create Shutdown Policy (ESXi1 台目用、イベント: 冗長電源の停電)	7 (ESXi1 台目選択)	Configuration Policy Name	Shutdown Policy_1a など
9			Timer	0 (タイミングチャート 1 番)
10			Power Source	冗長電源のデバイス名
11	アクション (ESXi1 台目用、ポリシーに続く画面、イベントソース: 上記 Policy)	8	アクション名	Host Power Action_1a など
12			ターゲットホスト	ESXi1 台目を選択 (192.168.1.102)
13	Create Shutdown Policy (ESXi2 台目用、イベント: 冗長電源の停電)	9 (ESXi2 台目選択)	Configuration Policy Name	Shutdown Policy_1b など
14			Timer	0 (タイミングチャート 1 番)
15			Power Source	冗長電源のデバイス名
16	アクション (ESXi2 台目用、ポリシーに続く画面、イベントソース: 上記 Policy)	10	アクション名	Host Power Action_1b など
17			ターゲットホスト	ESXi2 台目を選択 (192.168.1.103)
18	設定→自動検出	12	パワーソースとして設定	冗長電源のデバイス名
19	シャットダウン設定 (vCenter 用、イベント: パワーソースの停電)	13	構成→シャットダウンタイム	120 (タイミングチャート 2 番)
20			シャットダウンタイプ	シャットダウン

## &lt;SC20G2&gt;

項目	設定画面	該当ページ	設定項目(data)	設定値
1	シャットダウン設定 (UPS1 の SC20G2)	14	入力電源異常時の動作	無効(Ping 監視異常をトリガーに UPS を停止させるため)
2			UPS 停止までの待ち時間 (ストレージシャットダウンにかかる時間以上を設定)	出力コンセント A(制御なし):300
3			電源復旧時の再起動	有効
4			UPS 起動遅延時間 (秒)(ストレージ立上げ開始遅延時間)	0(タイミングチャート 4 番)
5	UPS 制御(UPS1 の SC20G2)	14	入力電源異常時の最大バックアップ時間 (ping エラー未発生時)	12 分
6	Ping による監視設定 (UPS1 の SC20G2)	15	出力コンセント A:IP アドレス,接続機器名	192.168.1.225, vCenter
7				192.168.1.102, vm1
8				192.168.1.103, vm2
9			出力コンセント A:シャットダウン動作	スクリプト Shutdown
10			出力コンセント A:Ping 監視で異常とする台数	3
11			出力コンセント A:UPS 動作	UPS 停止/UPS 再起動
12			合格回数	1
13			試験回数	1
14			送信間隔 分	1
15			Ping Delay Time 分	10
16	スクリプト設定(UPS1 の SC20G2)	16	ストレージシャットダウンのため実行するスクリプト番号の内容	既存のスクリプトのまま及び修正
17	スクリプトシャットダウン(UPS1 の SC20G2)	17	IP アドレス、ユーザ名、パスワード、スクリプト実行待ち時間、選択したスクリプト番号、プロトコル	実際の値、スクリプト番号とプロトコル
18	シャットダウン設定 (UPS2/UPS3 の SC20G2)	18	入力電源異常	動作:UPS 停止 待機時間:5 分
19			UPS 停止までの待ち時間 (vCenter、ESXi のシャットダウンにかかる時間以上を設定)	出力コンセント A/B/C(制御あり):300
20			電源復旧時の再起動	有効
21			UPS 起動時の出力開始遅延(B:ESXi 立上げ開始遅延時間)	(A:0),B:420(タイミングチャート 6 番), C:0
22			UPS 起動遅延時間 (秒)(vCenter 立上げ開始遅延時間)	60(タイミングチャート 5 番)

## ■設定方法の説明

## &lt;PAVH&gt;

## 1. モジュール設定の編集

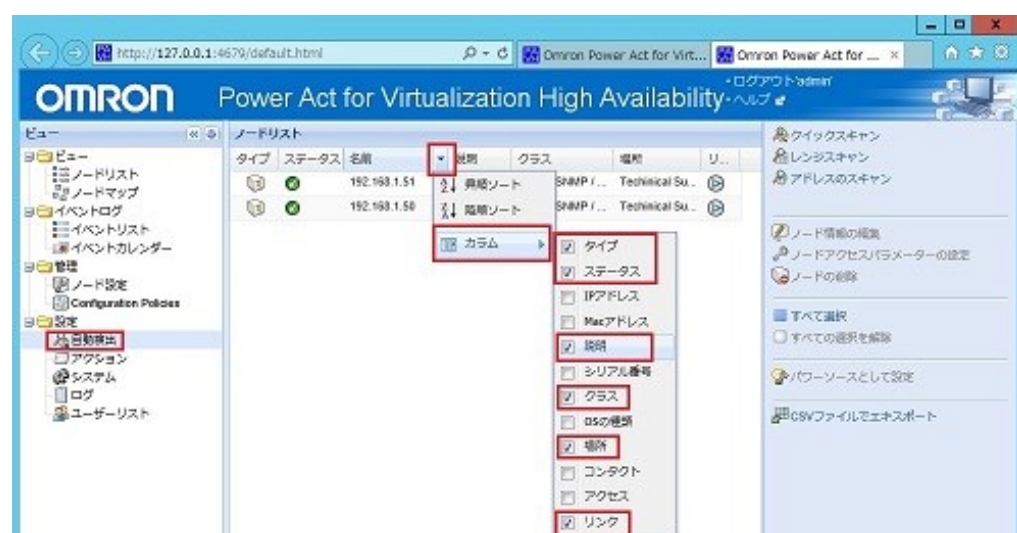
[システム] ⇒ [モジュール設定の編集] の順でクリックする。



すべてをチェックして[保存]をクリックする。

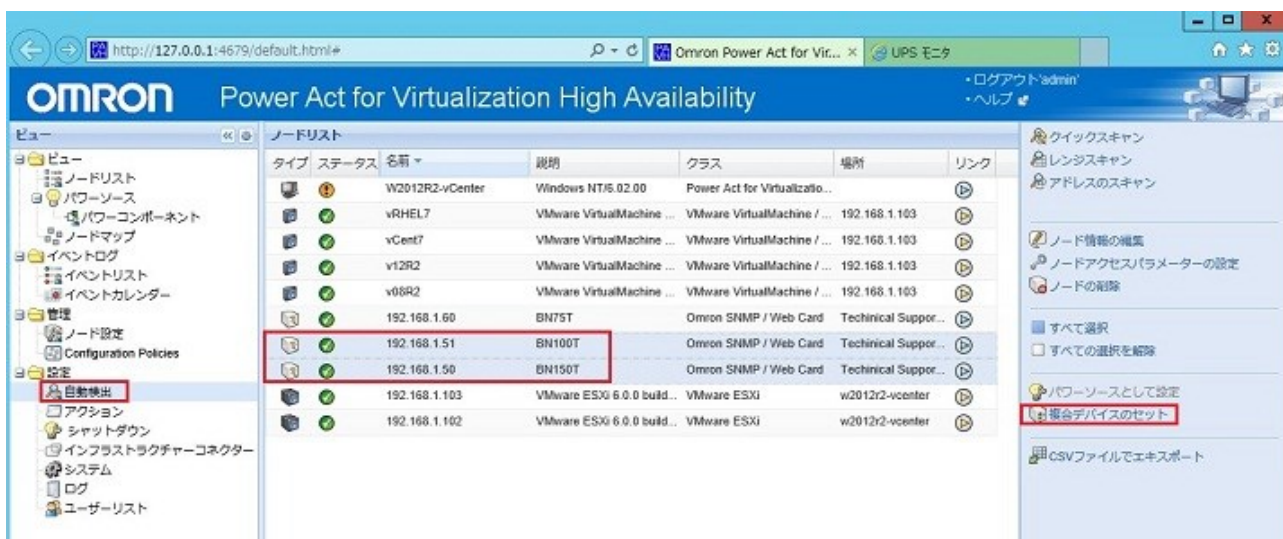


## 2. 表示内容の調整：以下を参考にノードリストの表示内容をクリックして変更する。



## 3. 冗長電源の設定

自動検出画面からUPS 2台をCtrl+Clickで選択し、「複合デバイスのセット」をクリックする。



任意のデバイス名を入力して冗長レベル0を確認し、「保存」をクリックする。



## 4. 冗長電源の確認

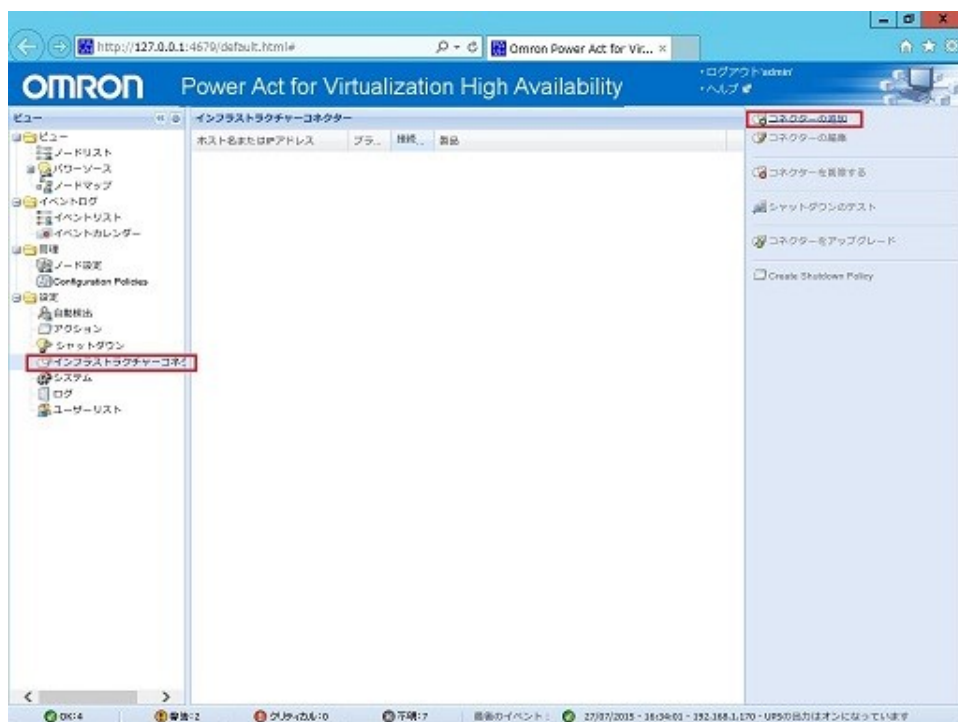
ノードリスト画面から冗長電源の名前を選択して画面右側の情報とステータスを確認する。



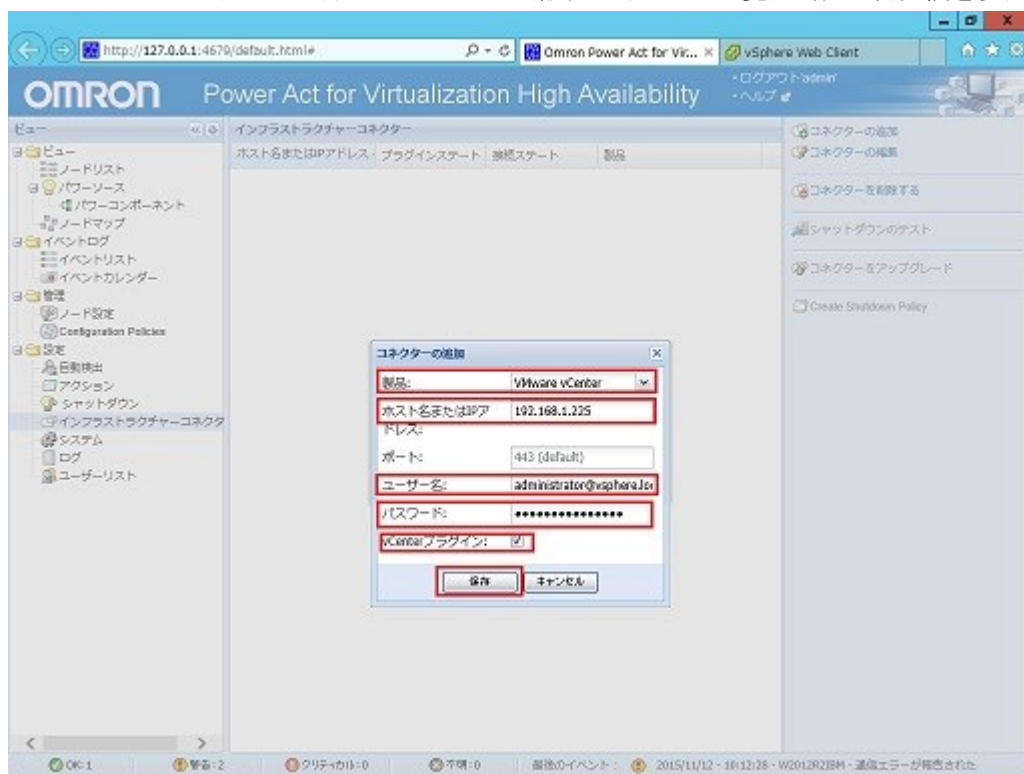


## 5. vCenter の追加と HA 構成情報の確認

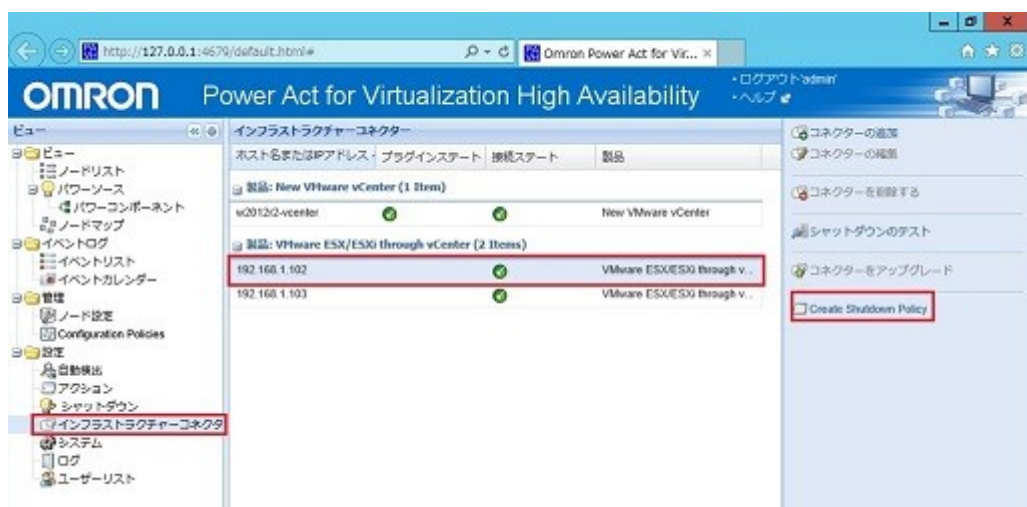
インフラストラクチャーコネクタ画面の[コネクタの追加]で vCenter を登録し、vCenter サーバのプラグインと接続状態および ESXi サーバの接続状態を確認する。(画面の更新のため 10 秒程度後に再度メニューをクリックします)



以下のコネクタ(vCenter)追加は 2 ページ(設定パラメーター一覧)の該当項目欄を参照。



6. ESXi1 台目(192.168.1.102)のシャットダウンポリシーを任意の名前(Shutdown Policy\_1a 等)で作成  
インフラストラクチャーコネクタ画面の ESXi1 台目を選択して[Create Shutdown Policy]をクリックする。



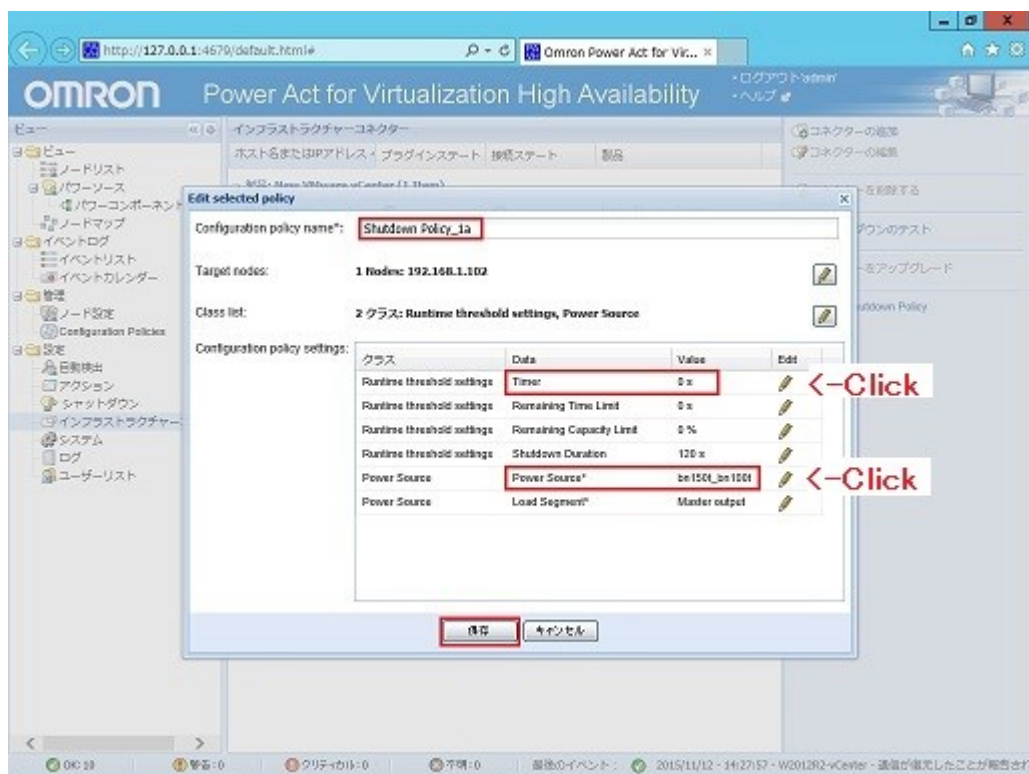
(注意) PAVH と vCenter、ESXi が正しく接続できている場合は、上記画面のように状態が全て✓で表示されます。

vCenter プラグインステートが×の場合、補足資料の補足 1 を参照してください。

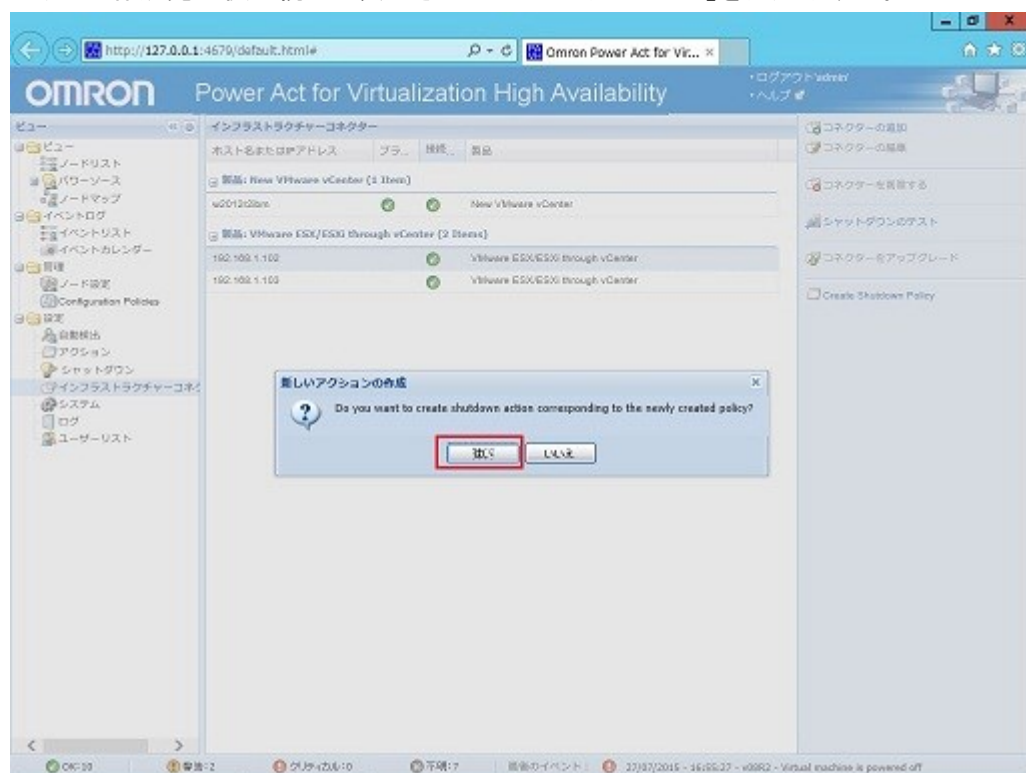
接続ステートが×の場合、画面右の[コネクタの編集]項目をクリックして入力値を再確認してください。

ESXi の接続ステートが×の場合は補足資料の補足 2 を参照してください。

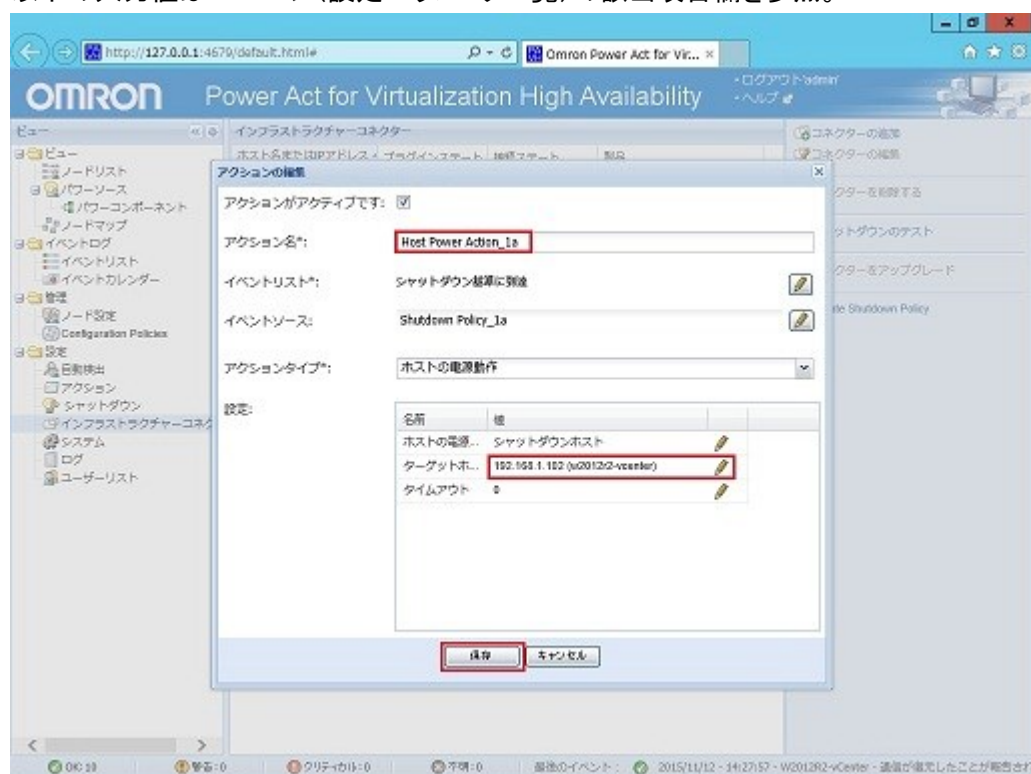
以下の入力値は 2 ページ(設定パラメーター一覧)の該当項目欄参照。鉛筆クリックで編集可能。



7. ESXi1 シャットダウンアクションを任意の名前 (Host Power Action\_1a 等) で作成 (ターゲットホスト: ESXi1 台目) ポリシー作成完了後に続いて表示されるダイアログで「はい」をクリックする。

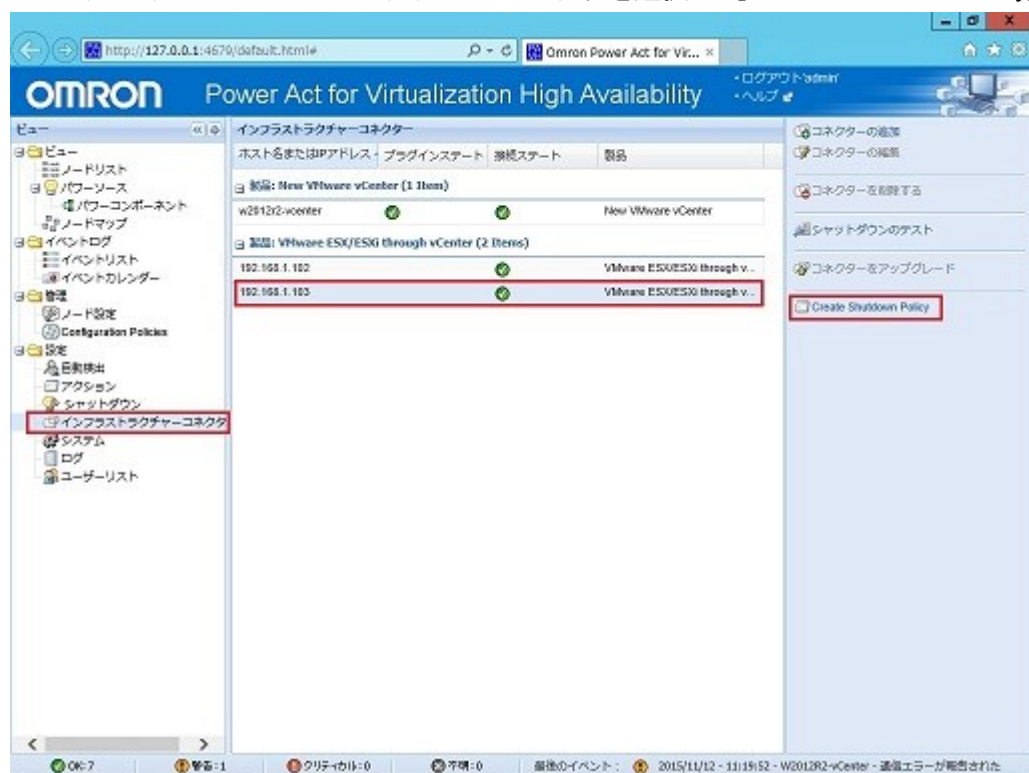


以下の入力値は 2 ページ (設定パラメーター一覧) の該当項目欄を参照。



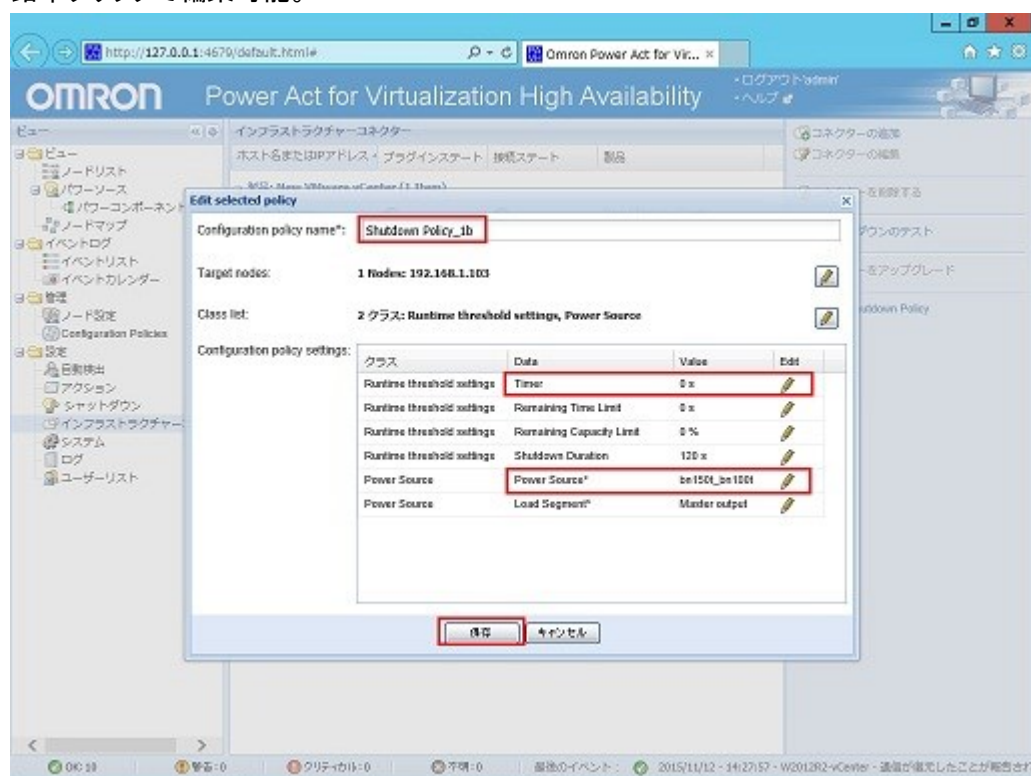


8. ESXi2 台目 (192.168.1.103) のシャットダウンポリシーを任意の名前 (Shutdown Policy\_1b 等) で作成  
インフラストラクチャーコネクタ画面の ESXi2 台目を選択して[Create Shutdown Policy]をクリックする。

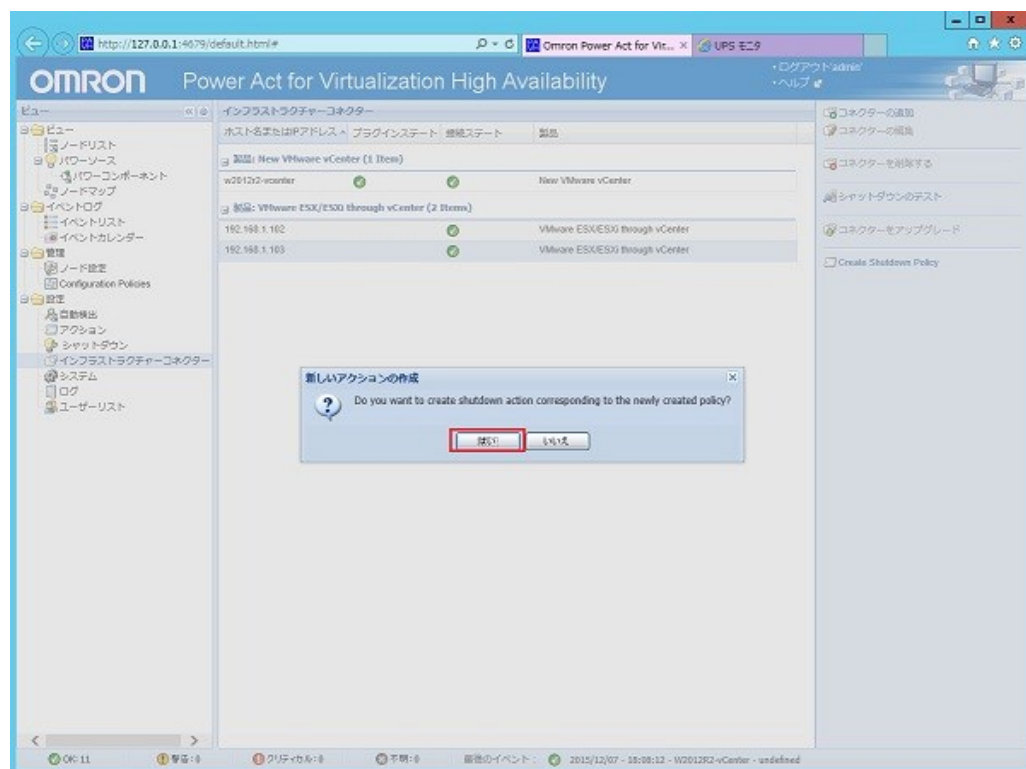


以下の入力値は 2 ページ (設定パラメーター一覧) の該当項目欄を参照。

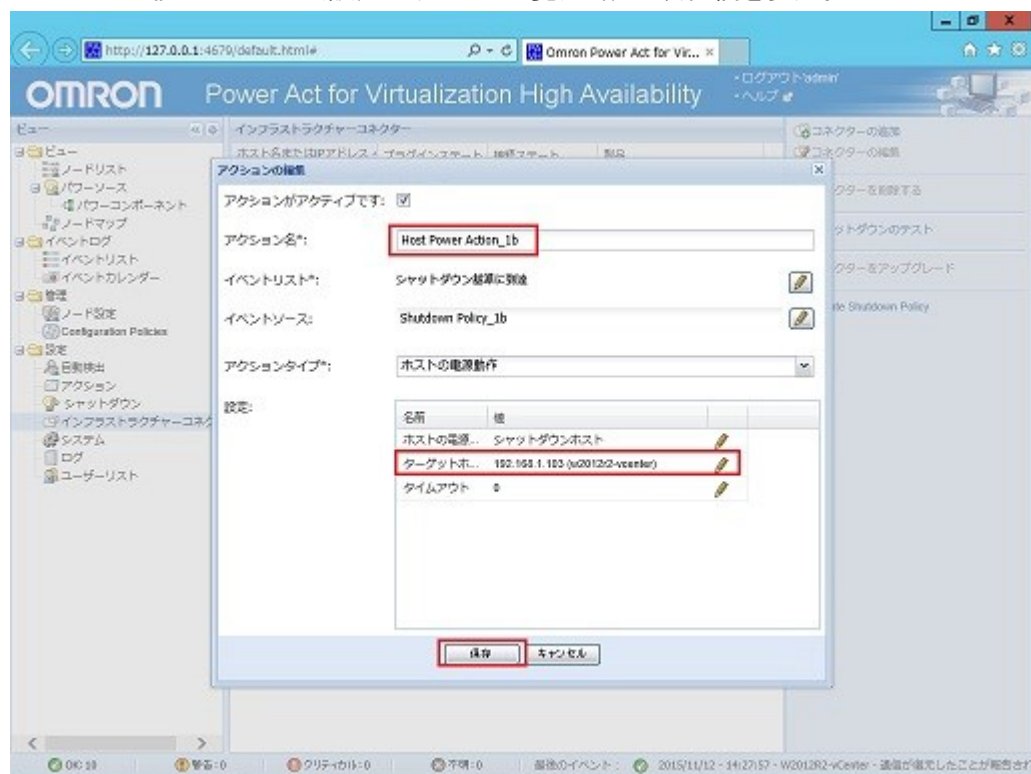
鉛筆クリックで編集可能。



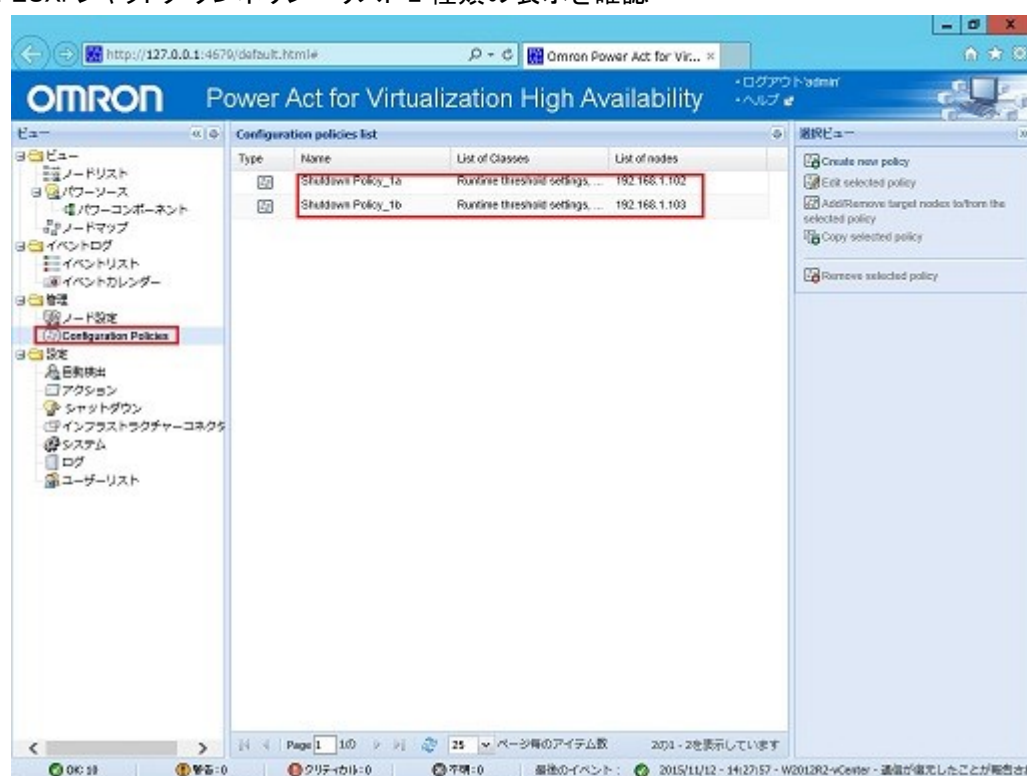
9. ESXi2 シャットダウンアクションを任意の名前(Host Power Action\_1b 等)で作成(ターゲットホスト:ESXi2 台目)  
ポリシー作成完了後に続いて表示されるダイアログで「はい」をクリックする。



以下の入力値は 2 ページ(設定パラメーター一覧)の該当項目欄を参照。

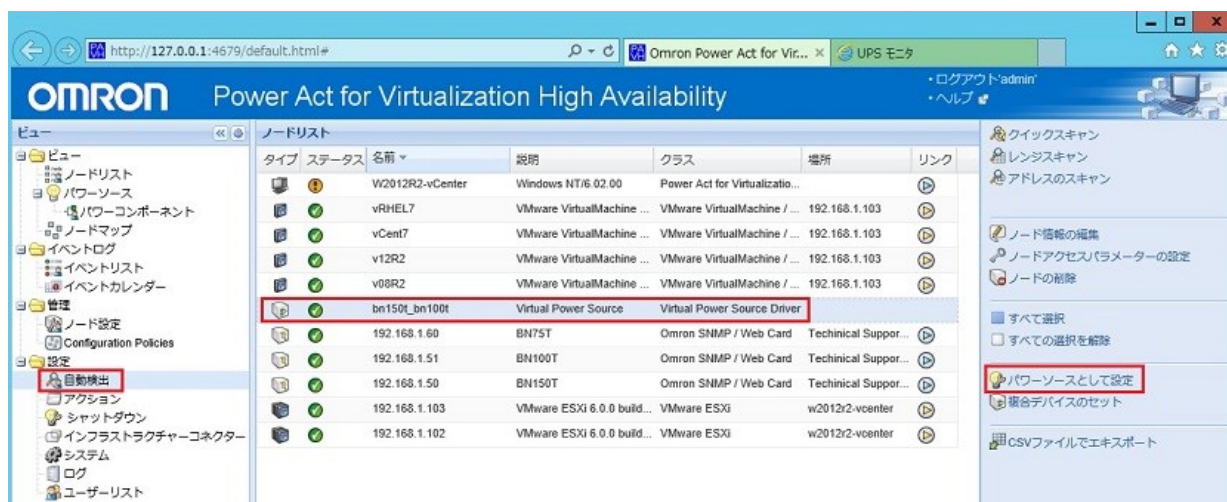


## 10. ESXi シャットダウンポリシーリスト 2 種類の表示を確認



## 11. vCenter 用パワーソース(冗長電源)の設定と確認

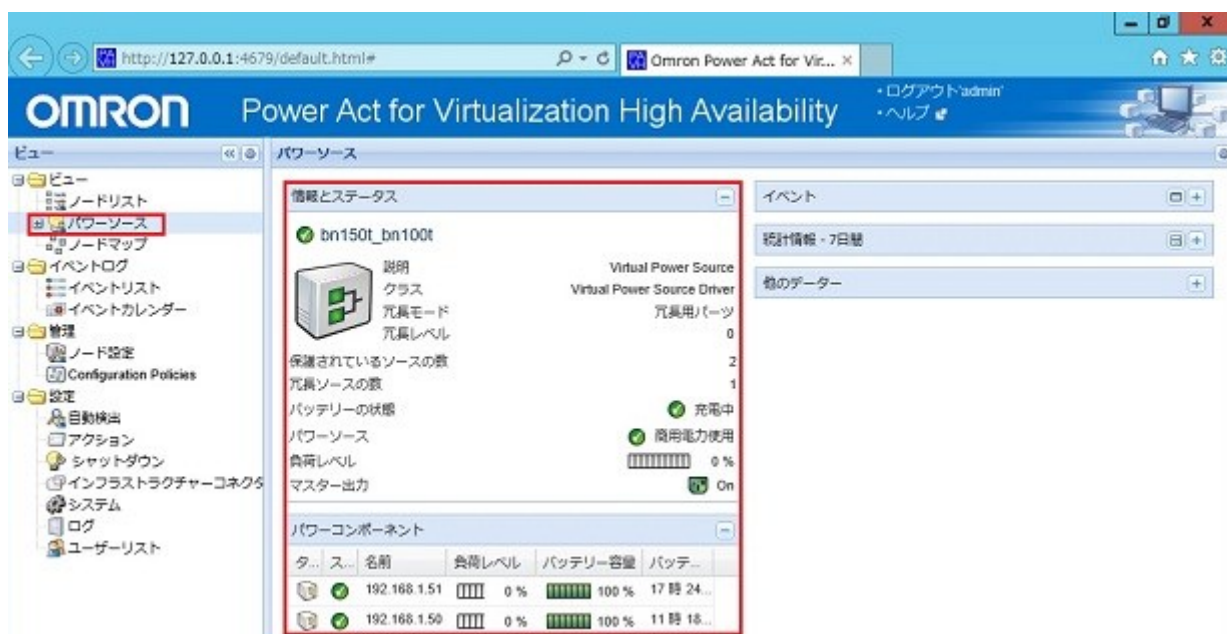
該当のパワーソースを以下の画面で選択して[パワーソースとして設定]をクリックする。



以下のように値を確認して保存する。



パワーソースの内容が以下のように正しいかを確認する。





## 12. vCenter サーバのシャットダウン設定

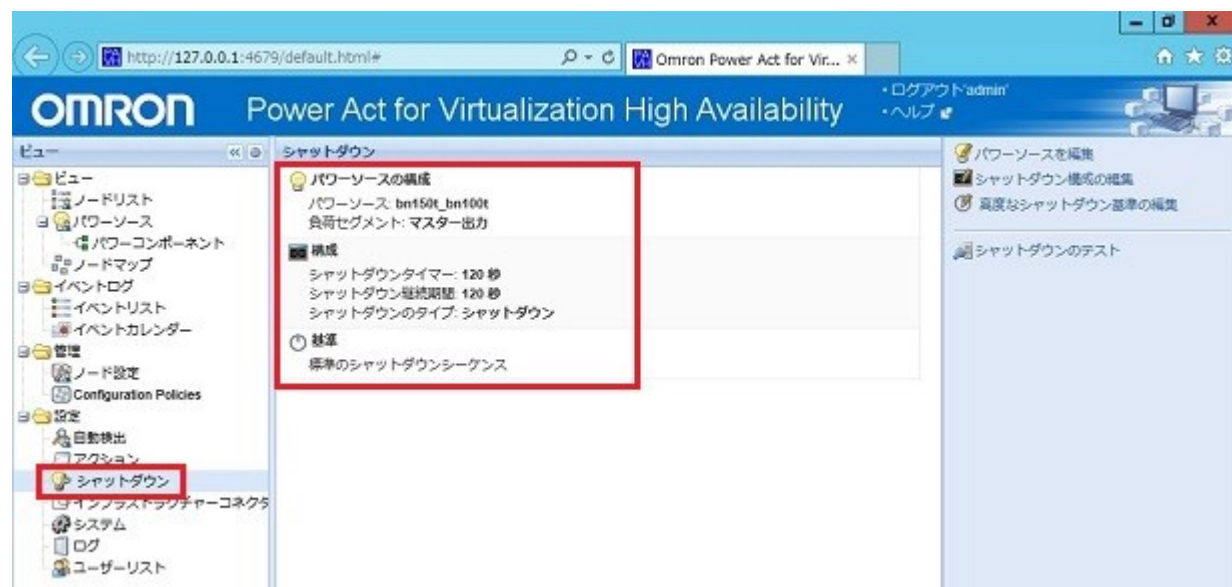


(設定前)

以下の入力値は 2 ページ(設定パラメーター一覧)の該当項目欄を参照。



設定内容が以下の画面に反映されていることを確認する



(設定後)

以上で PowerAct VHA の設定は終了です。

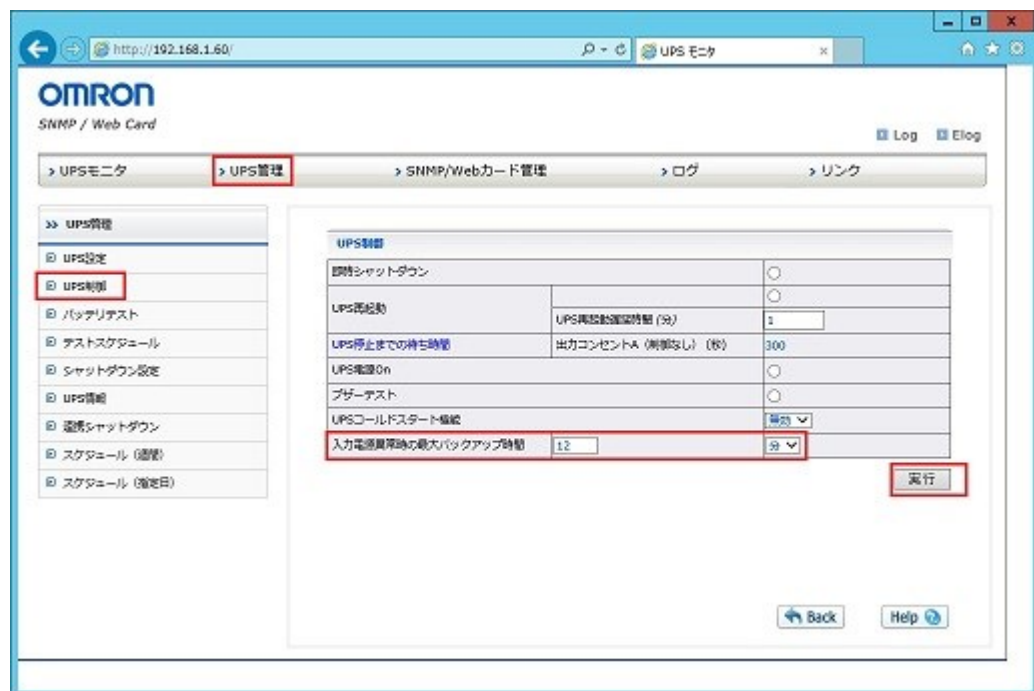
<SC20G2>：UPSのIPで新しいWeb画面を開く

13. UPS1「シャットダウン設定」※設定変更ボタンクリック時のID:OMRON, Password: admin

3 ページ(<SC20G2>設定パラメーター一覧)の該当項目欄を参照して設定後、[保存]をクリックする。



14. UPS1「UPS 制御」：停電後 Ping 応答継続時の最大バックアップ時間の設定



## 15. UPS1「Ping による監視設定」

3 ページ(<SC20G2>設定パラメーター一覧)の該当項目欄を参照して設定後、[保存]をクリックする。

The screenshot shows the Omron SNMP/Web Card management interface. The 'Pingによる監視設定' (Ping-based monitoring settings) page is active. The sidebar on the left lists various configuration options, with 'Pingによる監視設定' highlighted. The main area contains a table for monitoring targets and several configuration fields.

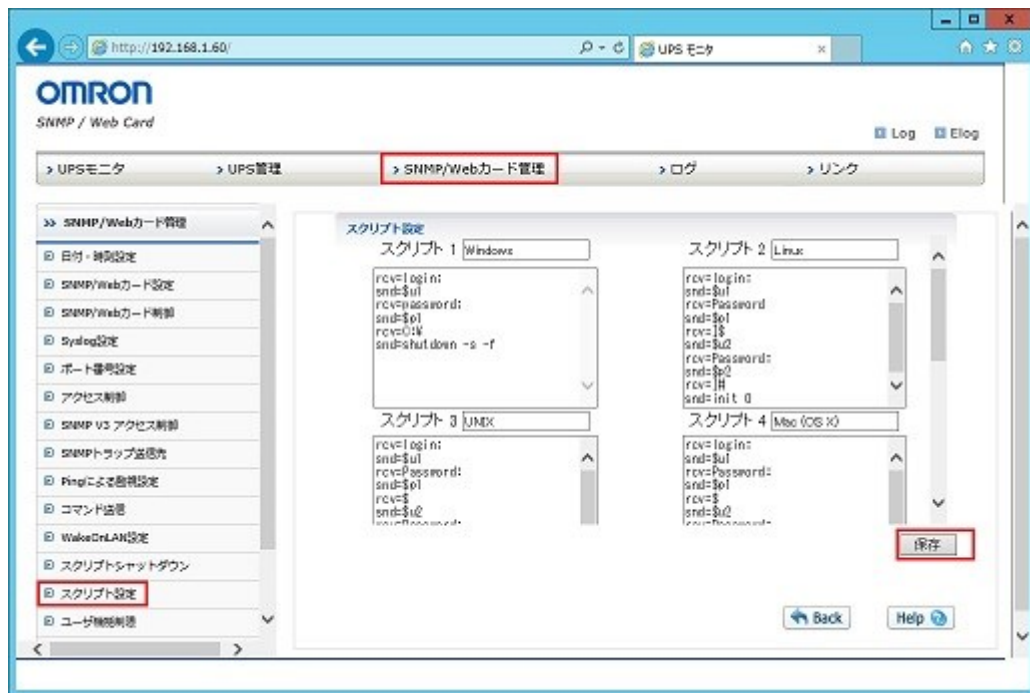
No.	IPアドレス	接続機器名	シャットダウン動作
1	192.168.1.225	vCenter	スクリプト Shutdown
2	192.168.1.102	vm1	スクリプト Shutdown
3	192.168.1.103	vm2	スクリプト Shutdown
4	0.0.0.0		シャットダウン動作しない
5	0.0.0.0		シャットダウン動作しない
6	0.0.0.0		シャットダウン動作しない

Below the table, there are configuration fields:

- Ping監視で異常とする回数: 3
- UPS動作: UPS 停止/UPS 再起動
- 合格回数: 1
- 試験回数: 1
- 送信間隔 (分): 1
- Ping Delay Time (分): 10

The '保存' (Save) button is located at the bottom right of the configuration area.

## 16. UPS1「スクリプト設定」



＜ Netapp Clustered data ONTAP8.3 用のシャットダウンスクリプト ＞

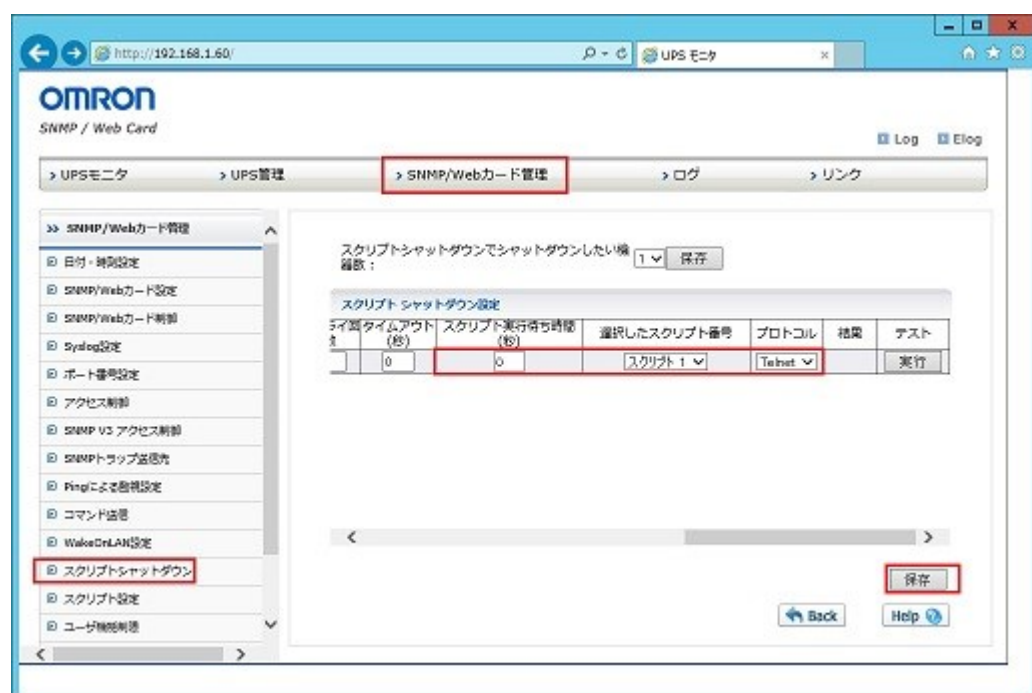
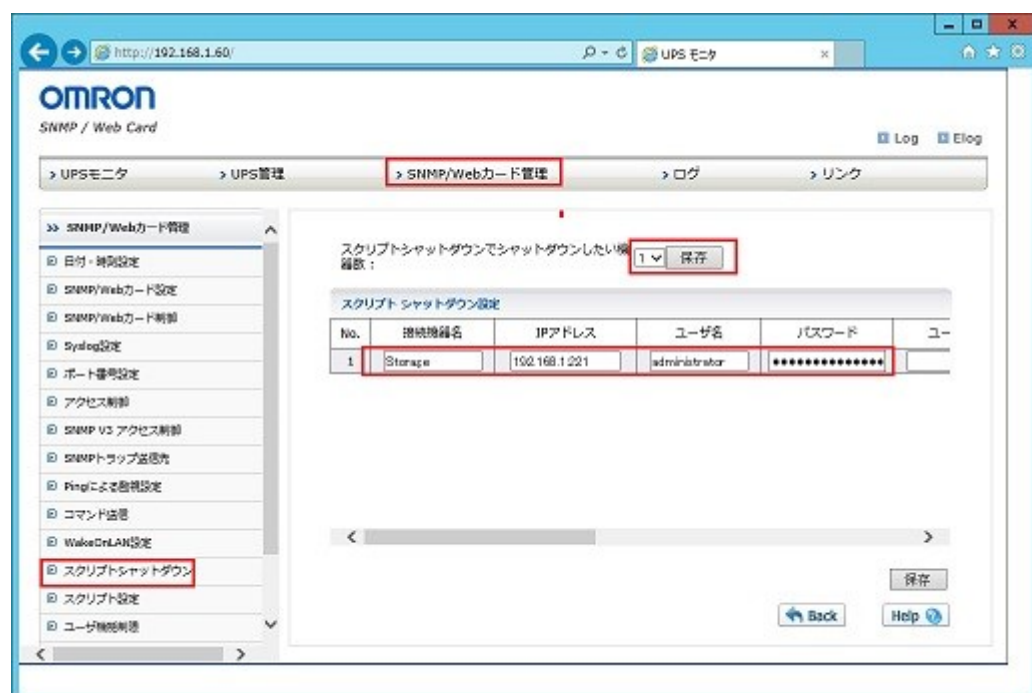
```
rcv=login:
snd=$u1
rcv=Password:
snd=$p1
rcv=:>
snd=system node halt *
rcv={y|n}:
snd=y
rcv={y|n}:
snd=y
rcv={y|n}:
snd=y
rcv={y|n}:
snd=y
```

＜ HP MSA2040 用のシャットダウンスクリプト ＞

```
rcv=login:
snd=$u1
rcv=Password:
snd=$p1
rcv=#
snd=shutdown both
rcv=(y/n)
snd=y
```



## 17. UPS1「スクリプトシャットダウン」



## 18. UPS2/UPS3「シャットダウン設定」

The screenshot shows the Omron UPS Manager web interface. The left sidebar lists various settings, with 'シャットダウン設定' (Shutdown Settings) highlighted. The main content area is titled 'シャットダウン設定' and contains a table of events and actions, and a section for configuring shutdown parameters.

No.	イベント	動作	待機時間 (分)	初期値 (秒)	警報時間 (秒)
1	入力電源異常	UPS停止	5	30	30
2	バッテリーロー	UPS停止	1	30	30
3	接続容量オーバー	警告	0	30	30
4	温度上昇	警告	3	30	30
5	スケジュール/過電	UPS停止	10	0	60
6	スケジュール/指定日	UPS停止	10	0	60

Below the table, there are several configuration options:

- UPS停止までの待ち時間: 出力コンセントA (無効なし) (秒) 300, 出力コンセントB (無効あり) (秒) 300, 出力コンセントC (無効あり) (秒) 300
- 電源回復時の再起動: 有効
- UPS起動時の出力制込遅延時間: 出力コンセントB (無効あり) (秒) 420, 出力コンセントC (無効あり) (秒) 0
- 電源回復時のUPS再起動条件の設定: 設定する
- UPS再起動条件: バッテリー電量 (%) 0, UPS起動遅延時間 (秒) 60

Buttons for '保存' (Save), 'Back', and 'Help' are visible at the bottom right.

## ■動作確認方法の説明 (P1 の「構成図」参照)

1. AC 停電で全接続負荷がシャットダウンすることを確認する。
2. AC 復電で全接続負荷が再起動することを確認する。(「復電時の注意事項」参照)

## ■復電時の注意事項

- ・ サーバを自動再起動するためには BIOS の設定が必要です。
- ・ AC 停電によりシャットダウンし、AC 電源再投入により再起動した場合、PAVH 上で ESXi の接続ステータスが × から ✓ に更新されない場合があります。

その場合は、PAVH を再起動してください。(7 ページおよび補足資料の補足 2 参照)